

2022年度帝京大学教育改善等改革プログラム開発支援制度による活動報告 ～スポーツ医療学科応用演習から発信するスポーツを通した子ども向け健康教育～

Health education for children through Sports led by students in seminar A report on the activity supported by Teikyo University Educational Improvement Reform Program Development Support System Grant 2022

内山由美子¹、浅野(星野)安信¹、穴井さやか¹、岩出雅之^{2,3}、岩野華奈²、岩村聡¹、大橋信行¹、緒方貴浩¹、
小川佳子¹、川田茂雄¹、木戸清孝¹、釘宮宗大¹、笹原潤^{1,2}、佐藤真治¹、佐野村学¹、佐保泰明^{1,2}、
島崎直樹¹、清水正典¹、下村一之¹、多田五月¹、永島昇太郎¹、中野孝行²、蛭間栄介¹、深井厚¹、
本郷仁吾¹、宮本亘¹、山本明秀¹、横田由香里¹
Yumiko Uchiyama¹, Anshin Asano-Hoshino¹, Sayaka Anai¹, Masayuki Iwade^{2,3}, Kana Iwano², Satoshi Iwamura¹,
Nobuyuki Ohashi¹, Takahiro Ogata¹, Yoshiko Ogawa¹, Shigeo Kawada¹, Kiyotaka Kido¹, Munehiro Kugimiya¹,
Jun Sasahara^{1,2}, Shinji Sato¹, Manabu Sanomura¹, Yasuaki Saho^{1,2}, Naoki Shimazaki¹, Masanori Shimizu¹,
Kazuyuki Shimomura¹, Satsuki Tada¹, Shotaro Nagashima¹, Takayuki Nakano², Eisuke Hiruma¹, Atsushi Fukai¹,
Jingo Hongo¹, Wataru Miyamoto¹, Akihide Yamamoto¹, Yukari Yokota¹

¹ 帝京大学医療技術学部スポーツ医療学科

² 帝京大学スポーツ医科学センター

³ 帝京大学スポーツ局

¹ Department of Sport and Medical Science, Faculty of Medical Technology, Teikyo University,
359 Otsuka, Hachioji, Tokyo, Japan

² Teikyo Institute of Sports Sciences and Medicine

³ Teikyo University Sports Bureau

Abstract

This paper is a report of Health Education for children through sport led by students belonging to seminar in Health Education and Life design. This work was supported by a grant of Teikyo University Educational Improvement Reform Program Development Support System.

キーワード：子ども向け健康教育， 学生主導， 協調的コミュニケーション， 合同授業

Keywords: Health Education for children, student initiative, collaborative communication, joint class

はじめに

近年、子どもを取り巻く問題として、屋外遊びの場所と機会の減少、体力・スポーツ実施率の低下、遊びやスポーツから獲得されるコミュニケーション能力・他者への思いやり等、健全育成に必要な機会の減少が指摘されており、保育現場では運動の機会を作ることや健康教育のニーズが高まっている。本学科の学生は、スポーツ経験により礼儀作法やコミュニケーション能力を身に付けており、大学の授業ではスポーツ・医療の専門知識を学

んでいる。本プログラムは、子どもの教育現場で必要とされるスポーツを通した健康教育を、スポーツ医療学科の学生が実施することで、学生は自身のスキルや大学での学びをアウトプットする機会を得、子どもの教育現場は学生との関わりを通して、子ども達が健康リテラシーを得ることが期待できる点に着目し、その実践過程と今後の方向性について検討するものである。

1. 背景

1) 教育改善等改革プログラム開発支援制度について

本制度は、教育改善の取り組みや新しい教育プログラムの開発・研究、学修環境の整備等を支援する学内助成プログラムである。今回、1年生のトップアスリートコースの学生が所属する演習クラスと、3・4年生の健康スポーツコースの学生が所属するゼミを開発モデルとし、合同授業を行いながら、子ども向けのスポーツを通した健康教育動画教材を制作することを通して、各コース所属の学生の持っているスキルや学びのアウトプットの機会として活用できるかについて検討した。

2) 本学科におけるプログラム開発の背景

子どもの教育現場では、スポーツを通して子どもの健康保持増進を目指したい考えがあるが、教育的関わりを継続して実施できる組織との繋がりを得る機会がない。本学科では、保健体育教諭、アスレティックトレーナー、スポーツ指導者、スポーツマネジメント等様々な進路を目指す学生が、あらゆる場面で行われているスポーツの意義や問題、課題を探索しながら学びを深めている。しかし現状では、学生がこれらの学びやスポーツ経験を通して得たことをアウトプットし、社会貢献する機会が少ない。また、本学には世界レベルで活躍する運動部があり、2018年には日本のスポーツを強くすることを目標とするスポーツ医科学センターが発足した。学内組織の協働のきっかけを、本学科の演習科目から着手し、子ども向けのスポーツを通した健康教育動画教材を医科学センター所属の強化クラブの監督やコーチの協力を得ながら共同制作し、その動画と学生の実演による健康教育を通して子どもの健康に貢献する方法を検討することを本プログラムの柱とした。

2. 対象と方法

1) 開発の対象

講義科目に比べ自由度の高い、健康スポーツコースの応用演習（3,4年生合同）から1ゼミナール、トップアスリートコースの学生が所属しているライフデザイン演習（1年生）の3クラスを抽出し、開発のモデルクラスとした。

以下、応用演習クラス、ライフデザイン演習クラスと称する。

2) 開発の方法

応用演習クラスの学生と、ライフデザイン演習クラスの学生が、子ども向けの「スポーツを通した健康教育の動画教材」を共同製作するために、以下の手順で演習を

進めた。また、健康教育の応用演習クラスとスポーツマネジメントのクラスが授業交流を行い、双方のプロジェクトについて発表しあうことを通して、プロジェクトマネジメントとアプローチ方法について学びを深めた。

(1) 合同授業の準備

① 取材（合同授業）の準備

動画教材制作にあたり、応用演習クラスの学生がライフデザイン演習クラスへの取材を行うための準備として、強化クラブのスポーツの魅力やルールについて文献調査を行った。文献調査をもとにライフデザイン演習クラスの学生が回答しやすいような記述式アンケートを作成し、応用演習授業時間内でアンケートリハーサルを行った。作成したアンケートには以下の項目を設定した。

- ・スポーツの礼儀作法
- ・身体を守る防具の役割
- ・ルールの大切さ
- ・競技のための身体の作り方
- ・仲間や相手への思いやり
- ・競技を通して得たこと
- ・競技の魅力

② コミュニケーションのための準備

トップアスリートコースの学生に快く取材に応じてもらうため、合同授業時のコミュニケーションを円滑にするための準備を行った。

以下の3つのゲームを導入に用い、リラックスしてから取材を行った。

- ・ワードウルフ
- ・他己紹介ゲーム
- ・イヤホンガンガンゲーム

(2) 合同授業（動画教材制作のための取材）

① 取材

応用演習クラスの学生がライフデザイン演習クラスの授業に出張し、アンケートを用いた取材を行った。ライフデザイン演習の3つのクラスには、それぞれ所属しているクラブ別に分かれるよう依頼し、クラブごとに取材を行った。取材内容から、「子どもが理解可能な言葉や表現を用いた教材の台本を作成していくこと」を、ライフデザイン演習クラスに説明し、子どもにわかりやすい言葉を用いて回答するよう依頼した。

② データベース作成

アンケートで得た結果を質問項目ごとにデータベースにまとめ、野球、駅伝、チアリーディング、ラグビー、剣道、柔道、空手道の7種目の台本を作るため、応用演習クラス内で検討を重ねた。また、アンケートの回答に対して、教職を目指す学生が中心となり一人一人にコメントを書き、フィードバックを行った。

（3）動画教材の台本・構成案・香盤表作成

データベースよりストーリーを作成し、子どもの心に響く言葉を抽出し、そのまま台本のセリフとした。アンケートの中でその言葉を用いて回答していた学生を俳優としてキャスティングした。ライフデザイン演習クラスに動画教材の構成案・台本を配布し、確認を依頼した後、香盤表を作成した。

（4）撮影

2022年10月19日3限目に野球・駅伝・空手道、柔道、26日3限目にチアリーディング、ラグビー、剣道の撮影を行った。

（5）動画試写

2022年12月～2023年1月にかけて、撮影した動画の編集を行った。

3. 振り返り

1) 応用演習クラス

以下、プログラム終了後のアンケートより、学生のコメントを抜粋したものを示す。

「作品のできていくプロセスがわかった」

「授業でやってきたことを活用できる場面がいろいろあるというのに気付いた」

「いろんな部活の試合を観に行きたくなった」

2) ライフデザイン演習クラス

以下、プログラム終了後のアンケートより、学生のコメントを抜粋したものを示す。

「子ども達が興味をもってくれるよう、笑顔で楽しそうに演技するよう心がけました」

「伝えきれなかったことは現場で子どもたちに直接伝えます」

「自分の競技を振り返って、自分の競技を改めて好きになりました」

「競技の魅力を伝えるという、いい経験になりました」

4. 展望

1) 健康スポーツコース学生への教育的効果

様々な進路を目指す学生が、スポーツの意義や問題、課題に主体的に取り組み、在学中の学びを社会に還元することに繋がる。

2) トップアスリートコースへの教育的効果

自身が取り組むスポーツの、競技すること以外の意義を問い直し、自身の持つ能力の社会への活用方法を考察することに繋がる。

3) 子どもたちへの教育効果

「カッコいい」アスリートのお兄さん・お姉さん（トップアスリートコース学生）が教えてくれるスポーツを通じた大切なこと、からだの先生（応用演習学生）が教えてくれるからだの仕組みや働きを通して、子ども達が自分の身体や運動に興味を持ち、主体的に考えるきっかけとなる。

将来的には、応用演習クラスの学生や各クラブの部員が、幼稚園、児童館、学童保育などを訪問し、動画教材を導入教材として、スポーツを通じた交流を行い、地域の子どもの健康リテラシー獲得とスポーツの発展に貢献することを目指す。

5. 今後の予定

2023年10月に、帝京幼稚園とT市の保育園において、野球遊びを通じた健康教育を行う。その導入として本プログラムで制作した野球の動画を用いる。

2024年1月に、T市の小学校5年生の学年行事としてランニング教室を開催する。小学校では2月に持久走大会があるため、1月は持久走強化月間となっている。本学駅伝競走部が小学校に出向いて行うが、その導入教材として本プログラムで制作した駅伝の動画を用いる。持久走へのモチベーション向上や走る楽しさを伝えるきっかけとなるようなプログラムとする。

謝辞

本プログラムにご協力いただきました、剣道部：小澤哲也監督、ラグビー部：相馬朋和監督、硬式野球部：渡邊諒介コーチ、空手道部：宮原美穂コーチ、藤田颯月さんに心より感謝申し上げます。

本プログラムは、帝京大学教育改善等改革プログラム開発支援制度の助成を受けて行われた。

利益相反自己申告：申告すべきものはなし。

〈資料〉

2022年度帝京大学教育改善等改革プログラム開発支援制度報告

（受理日 2023年10月19日）

スポーツ医療学科応用演習から 発信するスポーツを通した 子ども向け健康教育

スポーツ医療学科演習クラス（健康スポーツコース・トップアスリートコース）間の交流・協働による
学生の学びを活性化するプロジェクト

2022年度教育改善等改革プログラム開発支援制度採択プロジェクト
提案者：医療技術学部スポーツ医療学科
内山由美子

1

プロジェクトの背景

本学科学生の特徴

- ・保健体育教諭、アスレティックトレーナー、スポーツ指導者、スポーツマネジメント等様々な進路を目指す学生が多い
- ・スポーツの経験がある
- ・スポーツが好きである
- ・トップレベルのアスリート（トップアスリートコース）



大学での学びを統合し、アウトプット・社会貢献する機会、社会貢献できていると実感する機会が少ない

自身の取り組んでいる競技について、「授業の中で」言語化して振り返ったり、競技の魅力を発信する機会が少ない

本学科が誇る資源

★本物のアスリート
子どもにとって
「カッコイイ」
「憧れ」の人

★教職を目指す学生

★指導者・マネジメント系を目指す学生

「やさしく」「楽しく」
教えてくれる人
伝えてくれる人



子どもの教育現場

- ・スポーツ離れ
- ・体力低下
- ・スポーツを知る機会の低下
- ・友達を大事にできない子ども
- ・自分中心の子ども（仲間意識の希薄化）
- ・冷めた子ども



- ・スポーツの魅力を「幼児期」に伝えてくれる人が必要
- ・一緒に体験してくれる人が必要
- ・仲間の大切さを教えてくれる人が必要
- ・頑張る気持ちを伝えてくれる人が必要

2

プロジェクトの目的・方法

- 学科内各所が連携しながら、本学科の資源と学生の学びの成果の活用方法や社会貢献方法を考察する
- 学科内組織間で協働するきっかけを演習科目からはじめる
(健スポの応用演習とトップのライフデザイン演習のコラボ)
- 子供向けの「**スポーツを通した健康教育の動画教材**」という、発信しやすい媒体を両演習の学生と一緒に制作する

<共通目標>

子どもが「楽しそう」「やってみたい」と思うようなワクワクする方法で、**スポーツの魅力**を伝えよう

3

活動報告 動画制作準備

応用演習→トップのライフデザイン演習クラスへプロジェクトの説明
仲良くなるためにゲーム→アンケート



健スポ応用演習学生から
トップのライフデザインの
学生にアンケート

<調査項目>
やっているスポーツの魅力

スポーツで得たもの

身体のケア方法

身体を守るルール

子どもへのメッセージ

4

何度も構成案の修正を重ねる

香盤表を作成

台本に落とし込む

無事に全7種目ロケ完了

